

## 平成 30 年度事業報告書

公益財団法人として移行後 7 年目を迎えた当財団は、①精神文化に関する研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備の 3 つの柱からなる平成 30 年度（以下「30 年度」という。）事業計画を着実に推進し、文化の振興に寄与しました。

2021 年は、大倉邦彦没後 50 年という節目の年であり、翌 2022 年は研究所創立 90 周年にあたることから、30 年度事業計画は、創立 90 周年へ向けた未来志向型の事業計画として作成したところです。そのため、佐賀県神埼市立図書館との姉妹提携、沿革史資料の O P A C（Online P ublic Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録）公開、記念講演会など、2022 年度に向けた事業にも力を注ぎました。

### 1 精神文化に関する研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第1号)

#### (1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団の活動は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の实地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

創業者大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉邦彦は、自分は何のために生きているのか、何のために商売をして利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが社会貢献としての教育事業や精神文化事業への取り組みでした。大倉邦彦は、これを天から与えられた自らの使命と考え、当財団を設立しました。

今日、企業のフィランソロピー（慈善活動、社会貢献活動）やメセナ（文化支援活動）などの必要性が叫ばれていますが、日本国内にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献活動の考えがありました。近代日本の実業家の中には、国内外の思想的背景を元に、様々な社会貢献活動をした人物が数多くいます。

30 年度は、社会貢献活動で著名な実業家や企業を取り上げ、そうした活動がどのような思想、理念に基づいたものか、いかなる社会貢献をしたのかを研究しました。

また、大倉邦彦は、自らの使命を實踐して社会に貢献するためには、清らかで強い心を持たなくてはならないと説き、当研究所で修養会等を開催しました。そこで、「こころを磨き からだを鍛える」をテーマに、神道、儒教、仏教、キリスト教、武道、芸道、医学等様々な分野から心身の磨き方についても研究を進めました。

その研究成果の一部は、次の表に掲げた大倉山講演会や、『大倉山論集』第 65 輯の特集（4 頁参照）で公開しました。

#### 【大倉山講演会】

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第 82 回	4 月 21 日	近代の漢学と社会貢献活動 — 渋沢栄一と三島中洲の交流から —	町泉寿郎	65 人
第 83 回	5 月 19 日	森村市左衛門—陶磁器事業と社会貢献—	四宮正親	73 人
第 84 回	6 月 16 日	日本のロータリークラブ誕生と米山梅吉の思想	堀峰生	45 人
第 85 回	3 月 16 日	「今」を生きる—葉隠と禅、その現代的活用—	島善高	88 人

## (2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当財団を設立しましたが、その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を廻った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで 30 年度は、近代化が日本人の価値観や思想に与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、大倉邦彦に多大な影響を与えたインドの詩聖タゴールや、国際文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めました。研究成果の一部は、公開講演会で発表しました。

### 【公開講演会】

■共催：愛知大学 会場：横浜市大倉山記念館ホール・附属図書館第2閲覧室

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第 16 回	7 月 7 日	初版復刻に見る『吾輩ハ猫デアル』の魅力	谷彰	80 人

■共催：岡倉天心市民研究会 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第 4 回	12 月 1 日	哲学と茶による東西融合 — 岡倉天心の『茶の本』をよむ —	田中仙堂	85 人

### 【公開公演】

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者 会場：横浜市大倉山記念館ホール

開催日	演 題	講師	参加人数
7 月 14 日	タゴールの歌と舞—ベンガル語の響きとインドの旋律—	奥田由香他 2 人	80 人

## (3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

30 年度は、経常的な資料整理作業（附属明細書 1 頁参照）に加えて、特に沿革史資料目録の O P A C 公開事業等に取り組みました。

### ア アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、資料の劣化が進み、再生機器も無くなりつつあるのが実情です。そこで、30年度は、SPレコード24枚とソノシート1枚をデジタル化しました。

#### イ 写真のデジタル化事業

沿革史資料の中には、当研究所設立準備中から今日に及ぶ様々な写真類も含まれています。これらの写真は、当財団の活動内容や地域の様子を知る上で貴重な情報源となります。外部機関よりの問合せや借用依頼も多いことから、この写真類のデジタル化を進めました。

#### ウ 沿革史資料目録のOPAC公開

現在整理作業中の沿革史資料は、整理済み資料の目録件数が約10万件となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。

そこで、30年度より目録データを、図書館情報管理システム「情報館」のデータに変換を開始し、OPACにより10,031点を公開しました。

#### エ 資料の展示等

資料調査や研究成果公開の一環として、研究所資料展を3回、特別資料展を2回開催しました。

##### 【研究所資料展】

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第37回研究所資料展 (附属図書館)	4月27日～10月25日 (128日間)	心の交流 タゴールと邦彦	2,332人
第38回研究所資料展 (附属図書館)	11月1日～2月28日 (81日間)	世の為に田を耕す～大倉家三代の生き方～	2,628人
第39回研究所資料展 (大倉山記念館第7集会室)	11月1日～11月2日 (2日間)	大倉山記念館の今昔	60人

##### 【特別資料展】

回及び開催場所	開催期間	テーマ	入場者数
第14回特別資料展 (港北図書館)	9月7日～10月24日 (46日間)	変貌する地域、港北の地図展	—
第15回特別資料展 (港北図書館)	3月8日～3月24日 (16日間)	第33代横綱 武蔵山展 —日吉から大相撲の頂点へ—	—

\*入場者数が未記載なのは、展示会場がオープンスペースのため

##### 【港北図書館公開講演会】

■協力: 港北図書館、港北図書館友の会 会場: 港北図書館会議室

開催日	演題	講師	参加人数
3月10日	第33代横綱 武蔵山—日吉の孝行息子—	平井誠二	47人

#### (4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、精神文化の研究成果を広く国民全体に普及し、国民生活の向上充実に役立つように公開する手段の一つとして、印刷物や電子情報を提供しています。

##### ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行

『大倉山論集』第65輯を刊行しました。

第65輯 (A5判 369頁 550部 平成31年3月刊行)

特集 実業家の社会貢献とその理念	
特集にあたって	公益財団法人大倉精神文化研究所
近代の漢学と社会貢献事業—渋沢栄一と三島中洲の交流から—	町泉寿郎
森村市左衛門—陶磁器事業と社会貢献—	四宮正親
日本のロータリー・クラブ誕生と米山梅吉の思想	堀峰生
世の為に田を耕す～大倉家三代の生き方～ —第38回研究所資料展の報告を兼ねて—	星原大輔
大倉邦彦の社会貢献とその理念—新出資料の翻刻紹介—	公益財団法人大倉精神文化研究所
論説	
杉山神社を考える—過去30年の研究実績の紹介—	小股昭
討入り後の吉良家家臣連署状写についての一考察	小林輝久彦
副島種臣と銭子琴—明治初年、日中文化交流史の一コマ—	島善高
資料紹介	
金沢甚衛旧蔵資料「御料私領御用留」	古畑侑亮
報告	
展示会「心の交流 タゴールと邦彦」	星原大輔
受贈図書一覧	
所報	

#### イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、「研究所のしおり」を改訂し、講演会チラシ、展示会チラシ、展示解説等を編集発行しました。

#### ウ 電子情報の発信

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しました。また、SNSの活用として、ツイッターによる情報発信も行いました。

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しています。30年度は新規にデジタルアーカイブコーナーに「大倉邦彦と佐賀」のページを開設し、『大倉山論集』第64輯の内容をPDF (Portable Document Format) で公開しました。

## 2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

### (1) 他機関との連携事業

横浜市大倉山記念館指定管理者等の4団体・機関と連携して、7件のイベントを開催しました。

#### 【共催等の事業】

時期	主催団体・機関名	連携事業
4月21日	大熊弁玉顕彰会主催	「第3回ゆらむろ忌」を後援
4月28日～7月7日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「タゴールソングワークショップ～ベンガル語で歌おう～」(全6回)を共催
8月1日～8月19日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「夏の大倉山記念館さんぼ～オープンギャラリー～」を共催
9月9日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「大倉山記念館オープンデー」を共催

9月15日、9月22日、 10月6日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「今昔建物サロン」を共催
10月24日	現代インドの英語文学:インド社会の変容とグローバル化のはざままで主催	「タゴールから村上春樹へ—インド人の読書文化—」を共催
11月1日~11月5日	大倉山秋の芸術祭実行委員会主催	「第34回大倉山秋の芸術祭」を後援

## (2) 講師派遣

港北区役所等の13団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を16回派遣しました。

時期	団体・機関名	テーマ及び派遣講師
4月27日	港北ボランティアガイド	大倉山記念館の歴史と創業者の想い(星原大輔)
5月21日	横浜市日吉本町ケアプラザ	わがまち発見!日吉地区の魅力(平井誠二)
5月26日	一宮教育委員会	布佐村陣屋からみえる幕末の一宮—金沢甚衛旧蔵「御料私領御用留」の紹介にかえて—(古畑侑亮)
5月31日	港北区地域振興課	著作権と港北の昔ばなし(平井誠二)
7月28日	新羽小学校土曜塾(悪天候により中止)	パネルによる鶴見川の歴史解説(平井誠二・星原大輔)
8月25日	肥前さが幕末維新博推進協議会	維新期の江藤新平(星原大輔)
9月5日、6日	港北区地域振興課	もっと知りたい!「わがまち港北」ヒストリー(平井誠二)
9月8日	東洋大学浦水会神奈川支部	東洋大学と大倉邦彦(平井誠二)
9月15日	横浜市大倉山記念館	今昔建物サロン—歴史編—(星原大輔)
9月20日	港北ボランティアガイド	港北区域のあゆみ(平井誠二)
11月11日	小机城のあるまちを愛する会	小机城秋の陣第2部「トークショー、戦国時代の城の攻め方」(平井誠二)
11月19日	太尾小学校	太尾堤緑道について(平井誠二)
11月21日	港北区教育研究会	港北区の地勢と環境について(平井誠二)
11月28日	明治神宮国際神道文化研究所	「御逸事」関連資料の整理と若干の分析(平井誠二)
1月25日	太尾小学校	大倉山の梅まつりについて(平井誠二)
3月27日	明治神宮国際神道文化研究所	〈明治天皇の御逸事〉資料集の章立てについて(星原大輔)

## (3) 依頼原稿の執筆

A S A大倉山等の4団体・機関発行の情報紙等へ15本の原稿を執筆し、掲載されました(附属明細書1頁参照)。

## (4) 調査協力・記事掲載等

- ①7月14日、鈴木様よりタゴール写真の寄贈を受けました。
- ②11月6日、寺田様と青柳様より横綱武蔵山関係資料の寄贈を受けました。
- ③12月22日、1月23日、2月26日、寺田様より横綱武蔵山関係資料の寄贈を受けました。
- ④2月26日、不二出版株式会社へ出版物掲載資料として中央教化団体联合会関係資料の貸与を

行いました。

⑤大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区などに関する記事執筆の調査への協力や、当財団主催イベント紹介等が、『インド通信』等の 24 新聞・雑誌・ウェブで、66 記事が掲載されました（附属明細書 1 頁・2 頁参照）。

### (5) 見学案内

マナベル倶楽部等の 12 団体・機関からの依頼により、大倉山記念館や周辺地域の見学案内を 15 回実施しました。

時期	団体名	時期	団体名
4 月 14 日	マナベル倶楽部	7 月 27 日	愛知県大府市長一行
4 月 24 日	地元町内会・商店街	9 月 8 日	東洋大学浦水会神奈川支部
4 月 28 日	地元町内会・商店街	10 月 24 日	デヴァリナ・ムケルジー一行
5 月 1 日	地元町内会・商店街	11 月 21 日	港北区領域研究会
5 月 9 日	地元町内会・商店街	11 月 30 日	ノリタケの森館長一行
6 月 21 日	横浜市立図書館地域館長会	2 月 24 日	武蔵野文化協会
6 月 28 日	大綱小学校	3 月 22 日	横山家一行
7 月 10 日	太尾小学校		

## 3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

### (1) 図書館の公開

附属図書館は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで約 11 万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日まで週 5 日間、午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分まで無料で公開しています。

30 年度は、大倉山記念館や地域の行事に連動した 6 日間の臨時開館（附属明細書 2 頁参照）を含めて、延べ 247 日開館しました。

【図書館利用の実績】注：()内は前年度実績

開館日数	入館者数	図書貸出冊数	閉架図書閲覧冊数	複写枚数
247 日(247 日)	6,118 人(6,868 人)	4,514 冊(4,942 冊)	207 冊(200 冊)	1,334 枚(1,483 枚)

- ・蔵書検索アクセス数:348,025 件(289,763 件)
- ・図書館貸出カード登録者数:203 人(190 人) 累計 1,639 人
- ・レファレンス件数:44 件(35 件)

### (2) 資料の収集

精神文化に関する専門的図書資料、特に神道・儒教・仏教関連及び、歴史の専門的資料に重点を置き収集すると共に、入門書・教養書等も幅広く収集・整備しています。収集した資料は、OPACにより公開しています。30 年度は新たに 1,282 冊の図書を収集整備しました。

【30 年度受入図書実績】注：()内は前年度実績

	開架図書		閉架図書	
	購入	寄贈	購入	寄贈
受入総冊数 1,282 冊 (1,530 冊)	988 冊 (913 冊)	710 冊(460 冊)	294 冊 (617 冊)	78 冊(61 冊)
		278 冊(453 冊)		216 冊(556 冊)

30年度末蔵書冊数：図書・AV資料総数：106,296冊・点(105,138冊・点)

内訳：開架図書 23,066冊(22,582冊)、閉架書庫 83,020冊(82,351冊)、AV資料 210点(205点)

### (3) 専門図書館としての機能充実

当財団は貴重コレクションとして、23種類、約40,000冊の資料を所蔵しています。30年度は新たに「研究所沿革史資料コレクション」を加えて、24種類としました。これらの資料は、その大半は他館に書誌情報のデータが無い資料です。そこで、25年度より、独自に書誌情報のデータ化を進めており、14コレクションのOPAC検索を可能にしました。30年度は前年度より継続して2コレクションの書誌データの作成を進め、専門図書館としての機能充実を図りました。

#### ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

30年度は貴重コレクションのうち近世・近代文書目録を含む「和装本コレクション」9,000冊の簡易データの登録を行い、OPAC検索を可能にしました。さらに原簿番号等の確認や虫損被害状態等の確認作業とその情報を反映させるデータの詳細化作業を行っています。

また、29年度より5箇年計画で開始している「大倉邦彦旧蔵文庫」約4,000冊の書誌データ作成は、30年度末で累計1,100冊まで完了しました。

#### イ 書庫内資料の簡易データの詳細化とバーコード貼付

当館では、図書館情報管理システムを短期間で導入することと、その運用開始時からより多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としました。そのために、多くの資料について、書名・著者名の最小限だけ入力した「簡易書誌データ」を使用して運用を開始しました。システム導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を補足入力した詳細データ化とバーコード貼付を継続的に進めています。

29年度より10箇年計画で開始した、閉架書庫内資料約40,000件のデータの詳細化と、バーコード貼付作業については、30年度に約7,000冊の再処理を行いました。

#### ウ 貴重コレクション資料の写真撮影とホームページへの掲出

貴重コレクションは、資料保存のための観点からコピーを禁止しており、その代替措置として、複写依頼のあった資料について司書によるデジタル撮影を実施しています。書誌情報のOPAC公開を進めたことにより、30年度は大学・研究機関・研究者・放送局等から依頼があり、金澤甚衛旧蔵資料の『八丈島樫立村関係資料』『遠山金四郎役宅日記』など9件1,095枚の複写をしました。また、デジタルアーカイブ公開へ向けて、委託業者の選定作業に入りました。

#### エ 資料の保存に尽力

当館の貴重コレクションの中には、他館には所蔵されていないような貴重な資料が数多く含まれています。そのため、資料を健全な状態で保存していくことが当館の重要な役割の一つです。そこで、国立国会図書館や株式会社資料保存機材等を視察見学してノウハウを学びました。

ボランティアの協力を得て進めている資料の保存箱の作成は、30年度は121個（累計1,027個）を作成しました。入れ替え作業は貴重書コレクションを終え、大名榊原家文庫にとりかかりました。

虫損等傷みの激しい和装本資料や革装本の修復は、30年度より3箇年計画で開始しました。30年度は、10冊（洋古書本7冊、和装本3冊）を修復し、閲覧に供しました。

#### (4) 情報提供機能等の充実

図書館情報管理システム「情報館」を導入し5年が経過したので、今後の安定的な運用のため5月28日に機器の更新を行いました。

##### ア レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化に関する専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスの情報提供能力の向上が求められています。30年度は、図書館総合展、三康図書館、東洋文庫、神奈川県立川崎図書館などの見学や交流に参加し、情報提供機能の充実に努めました。

また、1月24日に株式会社ブレインテックのユーザー事例研究会を受け入れ、各種専門図書館の職員と意見交換を行い、スキルアップを図りました。

##### イ ホームページの活用と広報活動

###### ① ホームページの活用

当館の利用者は、全国の研究者と近隣住民に大別できます。研究者は当館ホームページからインターネット検索により専門資料の利用に至ります。一方、近隣住民は直接来館し一般図書を利用していますが、精神文化に関する図書館であるために来館者の年齢構成は、シニア世代の利用が比較的多数を占めています。しかし、当館は丘の上に立地しており、気軽な来館利用が比較的困難であるという不利な条件を抱えています。

いずれの利用者からも、ホームページの活用を一層進めて、図書館からの情報発信を増やすことが求められています。そこで、30年度は貴重コレクションのOPAC検索対応(7頁参照)を進めると共に、ホームページやツイッターを活用して新着図書やおすすめ本の紹介を毎月2回発信したほか、資料展示の案内や催し物の案内を随時更新し積極的な情報発信、広報活動を行いました。

###### ② 大倉山記念館や地域の行事に連動したイベント

当館は、誰でも閲覧や貸し出しができる公共の図書館としての機能も有しています。11月の大倉山秋の芸術祭や2月の大倉山観梅会、大倉山記念館オープンデー等地域に根差したイベントの開催に合わせて、当館のPRを行い、地域住民の利用者掘り起しと触れ合いの場となるよう、計6日間臨時開館し、併せて資料保存箱作成ボランティアの協力を得たワークショップ開催や大型本の展示をしました(附属明細書2頁参照)。

###### ③ 広報活動

館内見学は、47回(計517人)を受け入れました。

「図書館リーフレット」を1,000部作成し、来館者や、図書館総合展の専門図書館紹介ブースで配布し、知名度アップや利用促進に活用しました。

月刊雑誌『散歩の達人』11月号(交通新聞社発行)に図書館紹介の記事が掲載されました。

東京学芸大学附属高等学校からの依頼により「授業に役立つ学校図書館データベース」に紹介記事を提供するなど広報活動を行いました。

##### ウ 所蔵資料の紹介展示

閲覧利用者が日頃目にするものの少ない、貴重コレクションや庫内資料を紹介することと、大倉山講演会等の各種イベントの広報補完や、参加者が内容理解を深め知識を広げられることを目的として、図書館ミニ展示会を随時開催しています。30年度は計12回開催しました。

タイトル	期 間	入場者数
横浜の鉄道と沿線	4月1日～4月14日	211人
渋沢栄一と三島中洲	4月7日～4月28日	195人
タゴールと邦彦	4月27日～6月9日	578人
米山梅吉とロータリー・クラブ	6月10日～6月30日	264人
大倉書店と吾輩ハ猫デアル	6月30日～7月31日	764人
姉妹図書館提携記念 葉隠・東洋大学	7月31日～10月31日	1,178人
大倉家三代の生き方	11月1日～3月30日	3,337人
岡倉天心「茶の本」の背景	12月1日～12月27日	383人
続・葉隠	2月2日～3月30日	2,029人

タイトル	期 間	入場者数
運勢と占い	1月5日～2月1日	351人
横浜錦絵	2月2日～3月9日	1,682人
改元と即位	3月12日～3月30日	329人

#### (5) 姉妹図書館提携事業の推進

創立90周年記念事業の一環として、創立者大倉邦彦の生誕地、佐賀県神埼市立図書館と姉妹図書館提携を行うことになり、7月26日に神埼市役所において調印式を開催しました。また、それを記念して、8月16日に神埼市長と東洋大学学長を招き、横浜市大倉山記念館において当財団理事長と鼎談を開催しました。その内容は、10月16日の『神奈川新聞』及び『佐賀新聞』に特集記事として掲載されました。

姉妹図書館提携を記念して、7月31日から10月31日まで、佐賀県や神埼市、東洋大学に関する資料の展示（9頁参照）を行いました。